

議 長
4 番 高 橋

次に、通告順位2番、議席番号4番、高橋純子議員。

受付番号第2号、質問議員4番、高橋純子。

件名、「ICT教育のさらなる充実を」。

本町では、2019年以降、国のGIGAスクール構想に基づき、一人1台端末の整備と、ICTを活用した学習環境の整備が進められてきた。現在は「導入期」から「活用・定着期」へと移行している段階にあると認識している。

このような中で、ICTの活用が子どもたち一人一人の学びにどのような効果をもたらしているのか。また、教職員にとって無理のない形で日常の授業の中に根づいているのかが、今後の教育の質を左右する重要な視点であると考えます。

あわせて整備されたICT環境が単なるデジタル化や学習効率の向上にとどまることなく、論理的に考え、試行錯誤を重ねながら課題を解決していく力、特にICT教育を通じて育まれる力が子どもたちの生きる力や深い学びにつながっていくことが期待される。

こうした観点から、今後どのように子どもたちの学びを充実させていくのかを問うため、以下の質問をする。

1、ICTを活用して、「山北スタンダードカリキュラム」にある自分の思いを伝え、相手の考えを受け止められる子どもに育てているか。

2、ICTは、子どもの考える力をどう伸ばしているか。

3、ICT教育をどのように位置づけ、子どもたちの生きる力につなげていくのか。

以上。

議 長

答弁願います。

町長。

町 長

それでは、高橋純子議員から「ICT教育のさらなる充実を」についての御質問をいただきました。

初めに1点目の御質問の「ICTを活用して「山北スタンダードカリキュラム」にある自分の思いを伝え、相手の考えを受け止められる子どもに育てているか。」についてであります。ICT教育は従来のアナログ形式で行ってきた教育にタブレット等を導入することにより、お互いの利点を合わせ

て、よりよい教育を行うことです。

I C Tを活用することで、これまで以上に視覚的な授業が可能となり、授業の準備も容易となります。そうしたI C Tの利点を生かし、実際に見たり触れたりする実体験も大切にしながら、より効果的なI C Tの活用場面を考えて取り組むことが重要になります。

本町では、令和2年度と令和3年度の2年間で、小・中学校に一人1台パソコンを導入するとともに、教職員のI C T活用基礎能力の向上及び支援を目的としてI C T教育支援業務委託を開始いたしました。

また、令和5年度には「ゼロ歳から15歳までの一貫教育、保育の基本方針」にのっとり、山北スタンダードカリキュラムを策定し、ハードとソフト両面の整備を行いました。

山北スタンダードカリキュラムでは発達段階に応じた「受け取る力」「伝える力」を設定しております。義務教育の最終である15歳の目指す「受け取る力」を聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりする力と設定しています。

また、「伝える力」は、根拠を基に自分の立場を明確にし、相手が理解・納得できるよう論理の展開を考えて説明する力や場の状況に応じて言葉や表現を工夫し、分かりやすく伝える力としております。

こうした「受け取る力」と「伝える力」を育成するために、園、小・中学校では日常の保育・教育活動に取り組んでおり、I C Tを自分の考えを伝えるツールの一つとして、活用しております。子どもたちはパソコンを使い、自分の考えを伝えるための情報を収集し、発表用ソフトを用いて写真やグラフなどを示して発表する活動に取り組んでいます。

また、電子黒板等を使った授業により、画像や動画を見たり、音声を聞いたりすることで、学習内容の深い理解にもつながっています。

こうした活動を通して「受け取る力」については、相手の考えを聞き取り、その内容や表現の仕方を評価し、自分の考えを深める姿や「伝える力」については、根拠を基に自分の立場を明確にし、相手が理解・納得できるように論理の展開を考えて説明しようとする姿が授業の中や学習発表会など、学習活動の随所において見られています。

パソコンの活用とともに、直接人と関わり、対話による表現の機会や見学観察などの場を設定し、パソコンと実体験の両面の学習により、子どもたちの「受け取る力」「伝える力」を育成しています。

次に、2点目の御質問の「ICTは子どもの考える力をどう伸ばしているか。」についてであります。 「考える力」については、課題を論理的に考え、解決に向かう力と捉え、各教科において育成しております。

体育の授業では、自分の演技や演技中の動きを撮影して見直しや音楽の学習の際には、自分たちの合奏等を録画して聞き、改善点を考える際にICTを活用しております。動画や写真を撮影することにより、客観的に観察したり、比較したりでき、課題の発見と解決方法を考える手だてとなっております。

中学校では、技術・家庭科では、プログラミングの学習をしております。計測・制御のプログラミングによる問題解決の学習を通して、順次、分岐、反復といったプログラムの構造を支える要素についての理解や計測・制御システムの構想について、論理的に考える力を育てています。

このように、ICTを活用することでより視覚的に客観的に比較して対象を捉えることができ、課題を発見する力の育成につながっています。

そして、その課題から情報収集、比較、整理、表現を通して課題を解決する「考える力」を伸ばしています。

次に、3点目の御質問の「ICT教育をどのように位置づけ子どもたちの生きる力につなげていくか。」についてであります。生きる力とは確かな学力（知）・豊かな人間性（徳）・健やかな体（体）の三つの要素がバランスの取れた力とされています。

本町では、ゼロ歳から15歳までの一貫教育、保育の11分野の領域の一つとして、ICT教育カリキュラムを作成し、育ちと学びのつながりを意識したより質の高い教育・保育の実施を目指し、「情報活用能力」や「情報モラル」の育成に取り組んでおります。

この「生きる力」につなげるために、「情報活用能力」として発達段階に応じてICTに「触れる・慣れる・使う・活用する」という目標を設定し、各教科等の学習を通して育成しています。

また、「情報モラル」についても、約束やルールを守る、他者や社会への影響を考える、自分の責任について考え行動するなど、子どもたちが情報を正しく使えるようになることを目指しております。

こうした情報についての正しい知識や情報の先にいる人を想像する思いやりの気持ちなどが、ICTを使う上での「生きる力」として重要なものがあります。

社会の急速なデジタル化が進む時代を生きる子どもたちには、今後、園や学校の教育活動のみならず、生活する上で必要不可欠なものとなります。そうしたICTを上手に正しく使い、変化の激しい時代を他者とよりよく関わりながら、自分らしく生きていく力の育成に努めてまいります。

議 長 高橋純子議員。

4 番 高 橋 私がこの「ICT教育のさらなる充実を。」と件名にいたしました理由としましても、中央教育審議会では、現在、GIGAスクール構想を単なる端末配付の段階から教育の質そのものを高めるNEXT GIGAへと進化させる議論が進められています。

2025年から26年にかけては、次期学習指導要領改訂に向けた大切な節目だと考えておりました。なので、山北町の子どもたちがICTを通して、ただ機器を使いこなすだけではなくて、使い方次第では自ら考え、表現し、他者と協働しながら、これからの時代は安心して明るい未来へと歩いてほしいという願いを込め、そしてその子の今の時期にどう育てたいかがこれを山北町の考えはどのようになっているのか、そのような思いでこの質問をさせていただきます。

再質問をさせていただきます。

ICT教育のさらなる充実ということで、カリキュラムにあるアナログの形式から教育にタブレットを導入して、いろいろと変わった面があるというところがありますけれども、もう少し具体的に教育支援の業務委託が開始した経緯なども聞かせていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 子ども教育課長。

子ども教育課長 ICT支援業務の委託の関係かと思いますが、町長の答弁にありましており、令和3年度に一人1台パソコンの導入に伴いまして、教職員のICT

活用基礎能力の向上及び支援を目的として委託を開始したものでございます。

具体的には、小・中学校それぞれに年間24回支援員の方に訪問していただくということになっております。

支援員の方につきましては、授業及び公務の支援、あと環境整備支援、あとトラブルの対応等をしていただいています。

あと訪問日以外につきましては平日に限られるんですが、電話、メールで対応のほうも行っていただいております。

議 長
4 番 高 橋

高橋純子議員。

詳しくありがとうございます。

I C T教育支援の業務委託といいましても、やはり委託の内容としても町の考え方に合った形で業務を委託しておられるということが分かりました。

まず、山北町では、山北の教育、保育という令和7年度にちょうどI C Tを活用するというところの項目があります。なので、I C T支援を業務委託をされて、そしてこのカリキュラムを進めていこうという、それが教育の方針にのっとっているものであると理解はしました。

I C T教育一くりにしましても、いろいろと事業があるかと思いますが、この山北スタンダードカリキュラムがハード面とソフト面両方の整備を整えながら進めているということで、ある一定の評価は受け止めるんですけども、これが子どもたちに伝わっているか、その環境の状況の一つお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

ありがとうございます。

ただいまの御質問に対して、答えられる範囲でお話しします。

まず山北I C T教育、これにつきましては先ほど課長から答弁があったとおり、G I G Aスクール構想に基づきながら、山北町でも一人1台端末ということでタブレットを使った活用、そういうものの中で学習に取り組んでいるところでございます。

園については、その辺りについては子どもたちが持つものではなく、先生のほうで使った形の中でのI C Tに取り組んでいるというのが一つの現状か

と思います。

今言った環境の部分ですけれども、この環境というのは申し訳ございませんが、ネットワーク関係のことなのか、ちょっとその辺りもう一回確認させていただきます。

議 長 高橋純子議員。

4 番 高 橋 失礼いたしました。

子どもたちがそのICTの環境の中において、子どもたちが実感する環境の中の状況というのはいかがでしょうかということです。

議 長 教育長。

教 育 長 今の環境というのをICT、要するにタブレット等を使った授業とか、そういうことの環境という理解でよろしいですか。

まずは以前、私自身が学校現場にいたときから比べて、今の時代はパーソナルコンピュータ要するにパソコン、今はタブレットですけども、そういう形の中で活用できる、これは子どもたちにとっても教師にとっても非常に教育を進めていく上でのツールとして有効だとは思っております。

ただ、その中で、例えばちょっとしたときに調べたい。昔で言えば辞書を使ったり、そういういろいろな時間的なロスとかそういうものもある中で、今は本当に入力することによって、そういう調べることもできる。それだけ当然これは効率的な部分にもなるかと思いますが、子どもたちはより幅広い内容について調べたりすることができます。それが広がることによって、子どもたちの今度発表をしていくとか、提案していく、または理解していく、そういう中で、幅広さが広がってくると思っております。

一応、環境的にはそういう意味では有効かなというふうに考えますけれども、以上です。

議 長 高橋純子議員。

4 番 高 橋 いろいろ授業の中で、かつツールの一つとして活躍しているというのはもう手に取ってみて、そして生徒たちもそして公務のほうでも活用されているというお話ありました。

それを受けて、やはり既に5年以上経過しているという段階で、今現時点で見えている課題や改善すべき点があるというのであれば、どのようなもの

が考えられるかということは、いかがでしょうか。ありますでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

実際導入してからかなりの年数がたっているのが現実でございます。ただ、このカリキュラム、特に山北町のスタンダードカリキュラムの中のICT教育カリキュラムにつきましては、昨年出来上がった状態でありまして、カリキュラムの中身、ICTの部分に特化して言えば、今ようやく山北町はちょっと遅れてるような状態にはなりますが、スタートしたところです。

これについては、先ほど来、出ているように幼稚園段階から小学校、中学校、そういう段階、子どもたちの発達段階に応じた中で、ICTの部分をどう活用していくか、また、それを使った授業展開をどう進めていくか。これがようやく全体的なスタイルが見えてきて、新しく例えば山北に見えられた先生であっても、そういうものを参考にしながらこういう進め方で山北町のICT教育が進められているのかなということは理解していただけるかと思います。

これもカリキュラムができたからといって、それが今度実践化しなければ当然意味がないわけですので、今その辺りについてはICT、学校の中には昔で言いますと視聴覚教育担当とかいう形の中でおいてるわけですが、その先生方を中心に山北のICTの教育どういうところで活用していこうか。先ほど来出ているように一つは動画であるとか、それから音楽であるとか、いろいろな活用の仕方ができるかと思いますが、そういう取組の中でして、今現在は課題というよりも今取り組んでいる段階ですので、まだその辺りについては今後の精査が必要かと思います。

以上です。

議 長
4 番 高 橋

高橋純子議員。

もうおっしゃるとおり、このGIGA構想、GIGAスクール構想は最初の出だしがまず機器の環境を整える、それこそ機器を用いて教育環境を整えるところからの発信ですので、無理もないかなと思います。機材を活用するということからの位置づけが根拠にあるゆえ、今このようにICTを使うという段階に模索しつつ考えておられるということはすごく理解ができるところであります。

ただ、やはりどんどん時代は進んでおります。そして、山北町ならではの独自のスタンダードがこれからまた出発していくのかなという点を考えていく段階では、やはりもう今ここでどのような進め方をしたらいいのかな、そういうふうな考えに至ってもよろしいのではないかと思う中で、まずは改善すべき点というふうには言いましたけれども、これから進むべき子どもたちのICTを活用した考え方、受け止め方、そして試行錯誤する、そういう評価も得られている中で、今後どのように考えていかれるのか。一つお聞かせいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

今後のICTを活用した取組ということなんですけれども、山北に限らずこれは全国の子どもたちに一元言えるかなと思います。その辺から考えますと、先ほど出ていましたICT教育の中で、山北のスタンダードカリキュラム、こちらのほうの伝える力とそれから受け止める力、こちらのほうの視点から見ますと、まずICTを活用することは子どもたちが自分の思いを表現するのには有効だと思います。

それはなぜかといいますと、一つは話し手である子どもたちが自分の記録した数式であるとか、例えば文字、それから絵、写真等がこれは電子黒板、そういうものを活用して全体の子どもたちの前にその子の考えが提示されるわけです。当然そこには言葉として言語として、子どもたちの説明が加わるわけですけれども、よりそういう視覚の部分と同時に聴覚の部分、耳の部分でも両方から入ってくる情報がより有効的になると私は思っています。

一方、聞き手である子どもたちにとっても、提示されたテキストであるとか、そういう提案内容、または説明の動画、そういうものが相手の要するに話し手の部分での意図、そういうものも組み取ることができて、そういう相互の聞くほうと話すほうのつながりができる、より深まるのかなというふう to 考えます。

そういう中で、聞き手のほうも今度は聞くだけではなくて、その中に今度は自分なりのその子の考えをより深めていく、そういうツールにもなるだろうし、逆に今度は聞いてた子どもたちのほうが自分から今度逆に出すとき、発信するときにそういうところもつなげていくことができる、そういう相互

の深まりが今後期待できるかなというふうに思います。

以上です。

議長 高橋純子議員。

4 番 高 橋 スタンダードカリキュラム、これからやっぱり進む道もちゃんと道筋を得て、前に進んでいこうとされているというふうにも理解しました。

また、授業や発表や学習活動の随時にそういうところを活用されているというところではあります。

なので、これからもカリキュラムが子どもたちにとって大事な指針であるというところを踏まえて、これからもこのICTを前にICT教育ということでカリキュラムを進めていっていただけたらというふうに思います。

次に、そうやって子どもたちが考える力をこのように発表会なども踏まえて進めているということではありますけれども、子どもたち自身は各課においていろいろ横断した中で、ICTを使った充実した環境の中で学びを深めていると思いますが、一言お聞きしたいのは子どもたちの思考力や表現力、課題解決力を育てるための教育設計の中核に位置づけていかれる点がICT環境教育を進める上で大事ではないかというふうには思いますけれども、考える力を伸ばすのに含めて、思考力、表現力、課題解決力を育てる教育設計の中核に位置づけていかれると、この考えではICT教育ではいかなる考えをお持ちでしょうか。いかがでしょうか。

議長 教育長 教育長。

教育長 ICT教育を考える力、その中核というところなんですけれども、当然ICT教育で考える力の育成というのは、網羅されてると思います。

その中の一つとしては、考える力で考えますと、情報の処理や整理、こういうものは一つ情報の活用能力という視点から見ると有効かなと思います。

例えばネットで調べる、検索したり、これはまだ今後の課題になってくるかと思いますが、例えばこれから導入されるであろうデジタル教科書、こういうものも視野に入れながら、必要な情報をやはり効率的に収集する。まずこういうものを自分の中で整理、統合していく、そういう能力が必要になってくると思いますし、それが生かされるのかなというふうに思います。

それからもう一つは、共有ツール、これは電子付箋というんですか。我々

ペーパーの中でも付箋をつけたりして、要するに自分が調べたところのチェックをする、そういう機能がたしかあるかと思いますが、そういうものを通して情報の整理、それから分類、そういうものの中で思考が視覚化できるのかなというふうにも考えます。

それから、考える力の重要なところでは思考の深化と比較、これは深化というのは深まっていくという意味ですけれども、分析力は批判的な思考力、こういうものが考える力の中で、より培われていくのかなというふうに思います。

それから3点目にアイデアの創造と表現というんですか、これはちょっと私も調べてみましたが、自分の今度は表現力であるとか想像力、そういうものを膨らませていくときに、実はこの間子ども議会のときにも提案する子どもたちの中では、ちょうど今そちらの大野議員の後ろの辺りでデジタル黒板、要するにそこに映像を映して発表者がプレゼンをしました。そういうプレゼンを通して、そういうソフトを活用しながら、自分の提案したい内容、そういうものを動画編集ソフト等を活用して発表につなげていく。その前の年までは模造紙に自分たちのイメージをつくっていたものが、今年度についてはそういうふうにデジタル化したようなところで発表もある、そういうことを考えると、子どもたちのICT教育に伴う学びは深まってきているのかなというふうには感じます。

以上です。

議長 高橋純子議員。

質問は、端的にお願いいたします。

4番 高橋 今いただいた形で進んでいるところ、やはり目で見るとやはり力をつけてきているのかなというところが伺えました。

やはりこれも全国的に進んでいるところではありますし、先進事例などもありますので、これからやはりこういう先進事例なども全国的に見ると参考になるところもありますので、そういったところを参考にこれからも取り組んでいっていただけたらと思います。

最後に、ICT教育をどのように位置づけ、子どもたちに生きる力を育てていただけるかということで、質問をさせていただきました。

これは教育長にお伺いをしようと思えますけれども、ICT教育を使う授業で終わらせるのか、学びを変える力にまで高めていくのか。これはやはり私たち大人の責任でもあるのかなと思っております。ICTは便利な機械ではなく、子どもたちの可能性を広げる私は翼であるのではないかなというふうに思っている中でございます。なので、子どもたちがこれから教育一步先に行く挑戦を山北町が続けていっていただけるのであれば、今後どのような生きる力につなげていっていかれるのか、そこら辺をお聞きして終わりにしたいと思います。いかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

ありがとうございます。

ICT教育をどのように位置づけて、子どもたちの生きる力につなげていくか、これ非常に重要な課題だと思っております。

まずはICT教育、これはもう国の文部科学省のほうでも述べているように、生きる力は先ほど町長の答弁にもありましたように、知、徳、体、基本的なバランスの取れた力というふうに定義されているかと思えます。

この中で、ICT教育をこれら三つの要素をどのように育成していくのか、そういうところで考えますと一つ目の確かな学力である「知」、こちらの部分ではICT教育、これを活用した授業が児童生徒の学習意欲、それから理解度、こういうものを高めていくと同時に先ほど申したように、考える力、思考、こちらを深めたり広げたりすることに有効だと思います。

それから、デジタル教科書やオンライン学習、そういうツールによって個々の理解度に応じた学習が個別な最適な学びというふうなことで可能になっていって、知識、技能の定着と活用力が図っていけるのかなというふうに考えます。

それから、二つ目の豊かな人間性、これは「徳」の部分ですけれども、タブレット端末や電子黒板、こういうものを活用した共同学習では意見交換や発表を通じて他者の考えを尊重しながら、多様な価値観を理解する、そういう力がついてくると同時に、豊かな人間性を育むことができるのかなというふうに思います。

特にそこで注意しておきたいことは、情報モラル、こちらのほうもしっか

り根づいていかないと充実が図れないと思います。

それから三つ目の健康、体力、こちら「体」の部分ですけれども、こちらはやはり体育の授業を通して自分の実技を撮影して、動画を確認しながら修正点を見つけるなど、ICT健康、体力の向上にも間接的に役立ちます。

私自身かつて学校現場を見に行ったときに、ちょうど山北中学校で柔道の授業がありました。もうその時点で既にビデオを撮った先生がそれを映像で流しながら、今の動きについてということで自分はやってるほうは分からないですから、それはすごく有効な手だてだなと思ったのが、今ではもうほぼ毎日の授業の中でも生かされている、そういう意味では「体」の部分も生きる力、全てのものに網羅していく、そういうものがあります。

そういうことを踏まえて、山北の子どもたちへの教育もICT教育を活用しながら、やはり山北スタンダードカリキュラムにのっとり、山北の子どもたちをよりどの場所に出ても頑張っていただけの子どもたちにしていきたいな、なってほしいなということを思っております。

以上です。